

牡丹江市は、市内を貫いてゆったり流れる牡丹江<sup>ムータンジャン</sup>という川をそのまま市の名前とした。日本の川は〇〇川が殆どだが中国では〇〇江が多く、また黄河のように〇〇河もあるが〇〇川という名前の川を私は知らない。

この都市は黒龍江省の省都であるハルピン市の東南東の方向で約300km離れたところにある。ロシアとの国境までは約100kmでロシアには近い。市の規模は同省の中で3番目である。省内で何番目かを知る簡単な方法がある。それは車のナンバーを見ることである。

黒龍江省のナンバーの頭は「黒」の字から始まる。黒の次はアルファベットである。Aは省都である。黒龍江省であればハルピン市がA、遼寧省であれば瀋陽がAである。牡丹江市は黒龍省の3番目の都市なのでCである。

さて、牡丹江市は北緯45°くらいのところ

にあり、日本では旭川よりずっと北である。従って冬はとても寒く、この大きな牡丹江は凍結する。この都市はハルピン市ほどの華やかさはないが、そこそこ大きな都市である。ここを訪れた時、牡丹江を見るためホテルから地図を見ながら歩いて行った。ほどなく花が咲き乱れている公園が見え、その一角に何人かの女性たちのモニュメントが目飛び込んできた。鉄砲を持った女性の姿や傷ついた仲間に肩を貸しながら歩いている女性たちの像もあり、数えると8人いる。

同行した友達によると「八女投江」<sup>バーニョウトウジャン</sup>の記念碑で、日中戦争のとき、日本軍に追いつめられ逃げ場を失い、牡丹江の支流の川に8人が揃って身を投げたと言う有名な事件を表したものであると言う。大連に帰ったあと会社の人、何人かに聞くと、有名らしく皆良く知っていた。東北三省(黒龍江省・吉林省・遼寧省)は、日本軍との戦争が各所であり、そのためあちこちの都市に「〇〇抗日記念館」があり、いろんなモニュメントもある。いくつか見たが、生々しさを目をそむけたくなるような展示物のオンパレードである。江沢民が主席の時、特に反日教育に力を入れたが、記念館の文字も彼が書いたも

のが多い。

このような施設を見ると本当に日中友好などができるのかと思われてくる。それだけ日本軍も残虐なことをしたと言うことだが、まだ戦争を体験した人が多く生存している中ではむづかしいことかもしれない。中国人の友人に「何で日本を攻める施設ばかり作るのか。イギリスなんかアヘン戦争を仕掛けたり、中国の世界遺産級の建物をあちこち破壊したのに反英記念館などないのはどうしてか」と言ったがハッキリした答えは返ってこなかった。

ところで、2009年4月頃からNHKで「遥かなる絆」という日本人の残留孤児を扱ったドラマ(6回に分けて放送)を見られた方もあろう。私は、毎週ホテルがドアの下から差し入れてくれるNHKの番組表をみながらテレビをつけた。4回目の放送だったが、数ヶ



八女投江碑

月前に旅行した牡丹江市(牡丹江市周辺はその昔開拓団が多く入植した土地でもしられている。)付近が舞台であった。

感動的なドラマですぐテレビ画面に釘づけとなり一人涙を流していた。これは城戸幹(1941年旧満州東北部生まれ。苦難の道を歩いた末、1970年日本に帰ることができ両親との再会を果たした。)という人の実話のドラマ化で、この方の娘さんが父のことを調べて書いた「あの戦争から遠く離れて」(城戸久枝著)という本が出版されているので興味のある方は、一読されるとよい。これを見ると戦争直後に敵国の子供を育ててくれた中国人もたくさんいたわけで、いろいろと考えさせられた。

国情も文化も考え方も違う両国ではあるが、一衣帯水のお隣さん同士であり、1日も早く真の日中友好の時代が到来することを望むものである。

最後に牡丹江市の名物は何かと思って友人に聞くと、「熊の肝」のお土産が有名とのこと。そのための熊牧場もあるそうだ。私の牡丹江市に対するイメージは明るいものではないが、何時の日か凍結した牡丹江を見に行きたい。